学年だより

人

が

· 常 に

自

先端に立って

7

人に

道が

あ

第3学年 学年だより 4月12日 令和5年 第 3 号

進路選択のスタートにあたり

今まで生 路 とは きてきた道 自 分 0 生 きざまの延長 振 返る時 線 上に あ

る

道

を無 視 す る 事 はできないのである

その道 これ から 沙 伸び たところに直近の 進

は

あ

そのことを重 Q 分 かっておく 必要がある

今まで道を他人に拓いてもらった

今まで草をむしっただけの

自

分で拓いた道はでこぼこだろう

まったくぞんざいな道しか

拓い

かたがないでは 和 は 今まであ 舗装され ない なたが歩 た立派な道を拓 くことは

その道にふさわ

しい進

路

しれが 間違いのないところであろう

くのである 分で道を拓 分の生きてきた道の最 道なき平原

日

Q

生きてい

自

分で選び

自

道

なき山

ŧ

道

なき

目

0

前

にあ

自 自 広 己の 分色の輝きを放 進 鍛 路 練とあく とは なたの「 人 生の なき 創 生」は違 造であ 向 心によって磨か

望に か 満 ち 何 様にでも

実誠

意がそ

机

を支える

1) がたい荒涼が 溢れ た道を創って 広がっている。

■進路と無関係でない日々の生活

いよいよ私たちは中学最後の年、そして義務教育9カ年の仕上げの年を迎えました。しかし、「い よいよだなあ」などと感慨にふけっていてばかりもいられません。その間に時は砂のように流れ、最 上級生として、進路決定学年としての生活を仕切り直す前に夏休みを迎えてしまうでしょう。今、こ の時から自覚を持つ必要があります。

■「それと進路と何の関係があるの??」……おおありです!

進路とは、そこだけとってつけたものでは決してありません。またその場限りの付け焼刃が、進路 先での何年か通用するものでもありません。一日一日の地道な積み重ねこそが自分の進路を確かなも のにしていくのです。積み重ねがない者に、運命の女神は絶対に微笑みません。

その積み重ねは、今からでは少々遅い感はありますが、それでも必死になって頑張れば間に合いま す。あきらめてはなりません。

一年、二年と頑張って来た人には、進路に向けてのスタートはスムーズでしょう。三年に なってから頑張り始める人は険しい道のりになります。しかし、過去を振り返っている暇は ありません。その頑張る姿はきっと認められるはずです。

とにかく私たちは、今はみんなと共に生活していますが、卒業後は一人一人が、自分で選 んだ道を自分の力で進んでいかなければならないのです。

自分の進路計画を実現する方向で、最終学年を有意義に送ることができるように、 個人 でも集団でも努力してください。

今年は、そのための仲間でもあります。「自分さえよければ」という行いは、必ず自分がし っぺがえしを食らいます。協力しながらこの取組を乗り越えていくのです。

進路とは

<u>自分の生きざまの延長線上にある</u> いわば進むことがほぼ決まっている道



■頑張ったことを評価できるという考えを大事にしてほしい

人の持って生まれた力には差がなくとも、その後の様々な要因によって、中学に入ってくる頃には 多少の差が出てくるのかもしれません。しかし、これから続く長い人生を考えたら、その差は**これか らの努力によって必ず埋めることができます。**

その「頑張ったこと」を評価できる姿勢で進路指導にあたっていきたいと希望しますし、**点数や結果のみならず、自分が「頑張ったこと」に価値を見出し、自分で自分をほめてあげることができる、**そんな小と考えを育ててほしいです。



進路とは、自分の生きざまの延長線上にあるものです。「自分がやってきたこと」「自分がやってこなかったこと」これら全てが、最後の最後には進路を決めるのです。「中学卒業→高校進学」で進路が終わるわけではないので、「どうせ、おれの成績じゃ……高校はあきらめた」など、それで「人生」という自分の進路から逃げ出すわけにはいきません。

今、人生初の「進路を決定する」という大仕事に真正面から向き合い、「頑張ることができる自分」を手に入れることができたなら、たとえ高校進学の際には結果が出なかったとしても、人生という進路において必ず大成します。

■高校へ行くことがゴールなのではない

令和5年3月1日、東京都立高校では第2学年・第3学年からの転入学・編入学募集を公開しました。これは通常の都立入試の裏に隠れていて、あまり目立った発表ではありませんが、全学科トータルしてなんと5,575人もの補充人員の募集を発表しました。そのうちの2,470人は第2学年を対象としています。つまり、全日制の都立高校に進学した人がこれだけ辞めているということです。単純に1クラス35人と見積もって、約70クラス。文京九中1校規模の学校の、なんと7.7校分の人を新年度に補充するのです。

高校を辞める理由は様々です。経済的なことも含めて、「辞めること=NG」ではないにしても、「うーん」と考えさせられる数字です。令和4年には、4,390人を募集しており、これは何も今年に限った話ではないのです。

もう少し詳しく説明するとこうなります。少し古いデータですが、平成23年度に全国で高校を中退した人は51,780人。そのうち、22,322人が、一年生の時にやめています。この年、東京都の高校に相当する学校に在籍した人は317,516人。昨年度はこのうち1.7%の人が中退しました。



こうした事実からも分かるように、当の意味での「進路」とは、「どこの高校に 入るか」ということだけではすまされない問題になっていることは事実です。

■自分の生きざまを見据える一年間でありたい

このような中、将来を見据えて「今をどう生きるか」が大切であって、進路とは、その自分の生き ざまの延長線上にある、いわば進むことがほぼ決まっている道と言えるでしょう。自分の生きざまが 進路を決めるとも言えます。

今、自分がやっていること、それは本当に「今しかできないこと」なのでしょうか。「今やるべき こと」なのでしょうか。三年生にもなったなら、人任せ、人のせいにしないで、少し大人になって冷 静に考えるべきではないでしょうか。

結局、進む人は自分なのです。そして中学は必ず卒業しなければならないのです。

■学年だよりは進路だより

先生方はみなさん一人一人の進路について、担任の先生が窓口になり、学年の先生全員で、全力で サポートにあたります。九中の先生方もみんなで応援してくれます。

しかし、学校や保護者の方は進路についてアドバイスすることはできても、高校に入れてくれるわけではありません。そこは間違ってはなりません。

今年度の学年だよりは、行事への取り組みや普段の出来事だけではなく、進路選択をしていくうえでの有益な情報も発信する予定なので、進路だよりも兼ねていると思ってください。このおたよりは 進路に関して有効な手引きとなるでしょうけれど、それを見るか見ないか、参考にするかしないかは、 読み手であるあなたの心がけひとつにかかっています。